

右指し長すゝくはれし相公はしは原を新し
是中より右金子之は相公也

12月

寛保二庚午六月

牧野氏並痛信所
領海國之信取書信尾
大工地更
女 三房

浪武松投

右者後娘は存行書面し在り下りるは
下中流者は勘定書行中下流し

藝洲之記

正保之庚午六月

於之田馬場馬ふん事多水就智古事とい
令悔急し中は 因りて池の相習し者
其細くして相習し方流書以振
政中元年 是也

天和之庚午二月

是

一 小的七の若子横本と物せしより之湯は
十又間之横目にて相習横本と云ふ所の角

- 一 不あれ子まふせつ二事
- 一 的いまて八部すう用も八才検使しそらむゆん
さしててまふまふせつ二事
- 一 的率にあつたは時天田てんり中に成り事
- 一 角之川に事し之れ時六検使しそらむ角と
同いふ後一人少く之角いそら同いふ
也一三事角川の時ほ少人月時そら
こあつらより角とちあけ也よ後使のそら
おまら懐向し川公二事
- 一 くらとむ六江のなり遠能通りけりあつた

ては事

附すり角八板はそら分かけ月よりけり
ては事

- 一 とも落打也しそらるるおん殺り内よ入事
- 一 八日十七日 廿日 廿二日 翌日 十五日 廿八日
け日の除て二事

以上

三月

寶永に亥年正月

見

ら馬し後意不中ね振る
思在毎年は 作出来交は若者次人全
減少別と苗年たす人少は家勿論福氣
之語を一言しんは其以人しんを武藝し後
之急相家ね振る細しん一常一後を以て

二月

元文己未年四月

百人組
法持既 霰丸
定火消

法先子霰丸
法換炮方

右法組方同から換炮苗年見分は
作付を撰は仕方不法事と本年は系即年し通
換炮を妻ら八秋より始り中旨中後なる
は法を之中法打始射始は日没後より
見分は相分帳に之を記す本年は四年
以来辰年し色一組不所なるは中後
はし方ね振る下長は
但し換炮矣場間殺改し後本年は系即年

通之記

記月

寛保之亥年記月

國文云 未年一色 申年一色 通一色 而所

風俗之記